

平成 26 年度 第 2 回村上地区地域審議会 会議録

- 1 開催日時 平成 26 年 10 月 2 日（木） 13:30～15:00
- 2 開催場所 村上市役所 4 階 大会議室
- 3 出席委員 山口治雄、浅野謙一、磯部幸雄、高橋日出雄、塚田 進
小野長昭、片野高義、井上敏雄、山貝世津子、吉田智子
武田美和子、楠田 正（全員出席）
- 4 出席職員 大滝課長、太田課長補佐、林係長、片野主査
（事務局）
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議次第 別紙のとおり
- 7 会議経過 別紙のとおり

平成26年度 第2回 村上地区地域審議会 会議次第

日 時：平成26年10月2日（木）

午後 1時30分～

場 所：本庁舎 4階 大会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 村上地区地域活性化推進事業について【資料 1】

(2) その他

4 そ の 他

5 閉 会

会 議 経 過

1 開会 (13:30)

事務局； 定刻となりましたので、ただ今から第2回村上地区地域審議会を開催いたします。

今日はお忙しいところ、ご出席くださいますと大変ありがとうございます。委員の皆様方には市の行政運営に対しまして各段のご支援、ご協力をいただきまして大変ありがとうございます。第2回目の村上地区地域審議会を開催させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それではお手持ちの次第にあります、2の挨拶ということで会長からお願ひしたいと思ひます。

2 挨拶

会 長； 皆様、本当にお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今日の会議の次第ですが、第1回目のときに皆様から色々なご意見を賜って、もう少し具体的に村上地区地域活性化推進事業について皆様にご審議をお願ひいたしたいと思ひます。よろしくどうぞお願ひいたします。

事務局； ありがとうございます。それでは議事に移ります前に、一点だけお詫びしなければならない点がございます。第1回目の審議会におきまして、村上市の総合計画の関連の内容についてご審議いただく予定でございましたが、現在、第1次総合計画の中間総括を行っており、また第2次総合計画の策定に向けた準備が遅れています。年末までには皆様にある程度のお示しをした上で、ご審議を願ひたいところですが、この度は間に合わないということでご容赦いただきたいと思ひます。

本日は、村上地区地域活性化推進事業についてを集中的にご審議いただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

それでは、以降の議事進行につきましては会長からお願ひいたしたいと思ひます。

会 長； はい、分かりました。事務局の報告事項につきまして、ただいま第1次総合計画の中間総括が少し遅れているということです。第1次総合計画の中間総括、そして第2次総合計画の策定について、今日このテーブルに乗せるような予定でしたが、少し予定が延びたということでございます。それでは、議事に入らせていただきます。

3 議事

(1) 村上地区地域活性化推進事業について【資料1】

会 長； 事務局から説明をお願いします。

事務局； 【資料1により村上地区地域活性化推進事業企画書を説明】

会 長； はい、ありがとうございます。それでは、審議で皆様のお話を聞く前に、前回、上海府地区町づくり推進委員会の片野会長と村上商工会議所の

山貝副会長がご欠席でしたので、簡単に自己紹介をお願いいたします。

【片野委員及び山貝委員の自己紹介】

会長； ありがとうございます。それでは、村上地区地域活性化推進事業の説明を受けまして、審議内容が約4点ほどございます。周知範囲の問題と各種団体への参加依頼の必要性がどうなのか、あとパネル展ですがまちづくり協議会以外の団体がありますけども、それらの団体にもパネル設置を考えていくということ、もう一つは集客を考えての場合、郷土芸能やアトラクションも少し考えていく必要はあるのかどうか、物品販売も含めて皆様のご意見を伺いたいと思います。よろしくをお願いいたします。

どなたかご意見ありますか。

委員； この予算のうち、印刷製本費 24 万円とあり、大変少ない予算の大半を占めておりますが、市報の見やすい場所に載せるという代替というものを用いて、24万円の資金をもう少し限りある使い方にはいかがですか。

会長； ありがとうございます。確かに言われているとおり、印刷製本費に非常に費用がかさむ。それでも、1年の猶予があるのでその辺は研究する時間があるかと思えます。半分程度の予算をここで使って良いのかどうか、その辺を事務局の方で少し考察していただければと思います。おそらく市報に載せるにしてもスペースの問題を考えてのことだと思っておりますが、事務局からお願いいたします。

事務局； はい、ご意見ありがとうございます。確かに市報代替えという方法もございますが、今、会長がおっしゃったとおり市報のスペースというのもありますし、また市報ですと埋もれてしまうということも懸念されます。その辺も含めまして、もう少し単価が落とせるだとか、そういった方法も研究させていただき、ご相談させていただきたいと思えます。

委員； ポスターとか予算が随分かかりますね。

会長； ポスターも含めて、ある程度想定して作り上げていくと 24 万円くらいになると思えます。

委員； 単独でやるよりは、いわゆる各地区で行っているまちづくり通信に同じ原稿を載せると、ほとんどが今カラー版で毎月出ていますから。そうすると一世帯に必ず1枚は行きます。そういう形で周知した方が安くできると思えます。それから、ポスター関係もやはり必要になってくるでしょうし、一番大きな問題は活性化事業費の 50 万円を 3 年間で使うというのが最初の計画です。それを 1 年で消化して、3 年分を 1 回で予算計上し、村上地区の方に使って良いかどうかお聞かせ願いたい。

事務局； 確かにまちづくり通信というのが皆様の世帯に送られておりまして、非常に情報としてはダイレクトに伝わるものだと私も思っておりますので、その辺につきましてはぜひ活用をさせていただきたいと思えます。その分で経費が圧縮されるというのであれば、別な形での予算の使途についても研究させていただきたいと思えます。

委員； 50 万円は 1 回で使えるのですか。

事務局； はい。3 年に分けて使うところもありますし、今回、山北地区のように

夏祭りという形で1回で使ったところもあります。

委員； 分かりました。

会長； 20万円、20万円、10万円というように分割で使う方法もあるのだという説明が抜けているのですが、一極集中的に考えた方が良いのではないかとということでこういった企画書になっています。他に予算についてお考えのある方いらっしゃいますか。

委員； 報償費、旅費で20万円ですか。二人ですよ。一人は県内の人。そうすると、よほど聴いて「わあっと」と思う人でないと、20万円というのはちょっと。

会長； 確認がいると思いますが、地方のまちづくり、「まちの駅」の認定を前提として考えているような企画書になっていますが、その辺はいかがですか。

事務局； 前段の方で「まちの駅」の認定を受けるというのは、それに越したことはないです。ですが当然旧村上市の中でも5地区ありますので、それぞれの特性を活かして必ずしも1箇所、複数箇所受ける、受けないというのがそれぞれ出てくるかと思えます。すぐに受ける、もしかすると数年後になるかもしれないですが、そのきっかけ作りをまずしたい。「まちの駅」にどういった効果があるのか、そういったものから住民の皆様と積み上げていかないとなかなかうまくいかない、長続きしないということも考えましてこのような企画となっております。

予算の方の話ですが、実は概算という話をさせていただいたのですが、今回の講演会というのは恐らく単発になる可能性がございます。ですが今後は、まちづくり協議会自体の交流というのを年に1度くらいは行っていきたいと考えておりますし、それが村上地区全体の繋がりになるのではないかと考えております。そこで、可能であれば複数年度使えるような物品等の購入ができればということで、最終的に講師の予算が確定した段階で、パネル展等に使える資材を購入したいと考えております。

実は報償費、旅費につきまして、本当に概算となっております大変申し訳ないです。県内であれば、これほど経費はかからないと私どもも思っておりますので、ご了解いただければと思っております。

委員； 「まちの駅」の認定というのは、国から認定されると補助金が出るとかそういう認定という意味ですか。

事務局； 補助金ということではありませんが、認定証のようなものが発行されます。それがありますと全国の協議会の方からここは「まちの駅」をやっている全国に情報発信していただけるというメリットがあります。

会長； この事業の一つに、5地区の連携は絶対していかなくてはならないという目標があります。その上の段階で、全国的に連携をして各「まちの駅」でいろいろな情報を得ながら事業を進めていくことも大事だと思います。その際にやはり「まちの駅」の認定を取っておいた方がより活動、活躍しやすいのではないかとこの考えです。

委員； 認定を受けるにはどうすれば良いのですか。

- 事務局； 付属資料で「まちの駅」についてのカラー刷り書類をつけさせていただきましたが、まちの駅連絡協議会に登録をして認定を受ける形です。認定を受ける際には、トイレがあるとか、そこにまちの案内人がいるとか、いろいろ制約はありますが、条件を満たしていれば認定を受けられます。また、認定には「道の駅」と違い、ほとんど費用がかかりません。
- 会長； この審議会ではまだ、認定を受けるというところまで行っていないのでこの事業を考えながら、やはり受けた方が良いのかどうかその辺も考えていただきたいと思います。ただ、そのきっかけ作りを今やろうではないかというのが事務局の提案です。他にありませんか。
- 委員； 私たちは、村上町屋商人会からずっとやってきて、この度、第四銀行のレンガ倉庫を「まちの駅」にお願いしますと市長に陳情しました。暮らしていてやっぱり集うところが、例えば観光案内人がちょっと休めるところとか、旅の人たちが巡っていて分からなくなってそこに行くとか分るとか、そういう施設がいるというのは重々経験上分かっている、レンガ倉庫が良いのではないかとということで、この度陳情したのですがいろいろな町によってニーズとかは違うと思います。見附市、三条市、五泉市から来てもらって、聴くのも良いですけれども、逆にこの町にはこういう「まちの駅」がふさわしいと思い活動しているとか、行った方が分かるのではないかと思います。
- 事務局； 例えば、行政が主体だとか特定の団体が主体だということであれば、こちらから行くことも必要だと思います。第1回地域審議会のときに補足説明させていただいたのですが、5地区ありますので、必ずしも観光だけではなく、お年寄りから子供まで皆が集える場所というのも一つ考えられると思います。そのときに、広く市民の方々に知っていただくということを目的としております。事業名のサブタイトルにありますとおり、必ずしもここに登録するのが全てではないと思っております。村上版の「人が集える場所」を、地域の拠点的なものをどうやって作っていくか、そのきっかけ作りとして今回行いたいと考えております。
- 会長； 今の段階でもう少し広く考えておいた方がより良い「まちの駅」になるのではないのでしょうか。例えば、今、観光面でご発言がありましたが、仮に「赤ちゃんの駅」でも良いと思います。皆様のご意見を聞きながら集約して、最終的にはどういう形の村上市の個性ある「まちの駅」にした方が良いか、そのように考えた方がより分かりやすく進むのではないかと思います。「道の駅」は車で進み、「まちの駅」は人が主体となってまちづくりを進めるということです。
- 委員； P T A関係の方も来られておりますが、やはり子供のセーフティーネットということも要素としてあります。はじめから間口を決めないという話です。瀬波温泉もふれあいセンターもあるので、それらも含め「まちの駅」の認定をお願いできませんかということです。
- 委員； どういう場所でも良いということですか。
- 委員； そういう場所が各地区にあるのかとなってくると、おそらく上海府はな

なかなか集落が離れている。瀬波だって一つは店を改築してやってはいるけれども、それを継続して誰かがそこに常駐してやるとなるとなかなか難しいです。

委員； 村上の町屋だけを考えると分かりやすいけれども、やはり5地区で考えなければなりません。

会長； ただ、場所を決めて議論していくとある程度狭まってくるので、今の段階では議論を積み上げた結果、ここが良いのではないのかという地区が出てくるような気がします。

委員； 積み上げるのはいくらでも積み上げることはできますが、町屋だけ積み上げても、空論にすぎないのではないですか。

会長； 皆様が目指すところをある程度決めれば、おのずとどの地区が適地なのかというのも一つイメージが湧いてくるような気がします。

委員； いろいろな目的があります。高校生が駅前で電車を待つ間に宿題をやっているようなところもあります。それは昔、学校の先生だった人が変わり順番にやってくれていました。非行を防ぐためです。いろいろな目的によって「まちの駅」が点在すると、お金がかかるし、一緒になんでもかんでもそこへ行くとかいうような駅が良いです。

会長； 私個人的なイメージですと、まず市民が主体的に何かをやろうとする、何かというテーマは決めないで、市民が主体的に動くための環境整備。その環境の一つとしての「まちの駅」。こういった使い方にしていけたら、これは費用対効果があるという捉え方をしています。それは観光に繋がることもあるだろうし、まちの活性にも繋がるとか、少し理想論になってしまいます。最初はまず総論から、ある程度、皆様が位置づけをした上で、各論に入っていくことが必要なことではないかと思えます。

委員； 「まちの駅」を集落のどこに作るかというのは後です。要するに、講演会で「まちの駅」をよく知ってもらうためには、どうしたら良いか話し合うことです。

委員； 結局は、住んでいる人が何を求めているかということです。

会長； そうです。それを吸い上げなければならない。

委員； 周知はどこまでにするか。村上市内ですか。

委員； 村上市内といえば、当然、観光が売り物ですから、観光客の休憩所、案内人の方々、市民の方が多用途に使える。ちょっと田舎に行けば、地域住民の憩いの場、いろいろ目的が違います。

委員； 村上地区の方はそういうところがあれば、行き帰りにお爺ちゃんやお婆ちゃんちょっと寄ってということもできるだろうし、触れ合いもできると思えます。

委員； 前回の資料にとってもいい村上の「まちの駅」のイメージがあります。それを見ていただくと、イメージがつかみやすいと思えます。

会長； 議論を重ねていくと、申し上げましたが、審議会の開催回数も限られた中で、皆様に相談させていただきまとめていくこととなります。それが難しいところだと思えます。

先ほど申しました4つの事項で、ご意見のある方はいらっしゃいますか。周知範囲はどこまでにするのかというのは、村上地域だけで良いのではないのかという意見もあるので、範囲は、村上地域だけということでしょうか。

一 同； 異議なし。

会 長； 決定ということで、スタートします。あとは3点です。各種団体、いろいろなまちづくりに関して活動する団体があるのですが、積極的に参加したいとなれば、これは当然受け入れていくことは必要だと私は考えています。

委 員； それは、団体がまちづくり協議会にどれだけ関わっているかがポイントになるのではないですか。

会 長； これから関わってもらうためにも、参加したいと積極的に来るのであれば大いに歓迎をして連携をしていかななくてはならないと思います。

委 員； もうスタートして3年経っているわけですから、既に関わっていないとあまり意味がないのではないのでしょうか。

会 長； これは全体ではなく、私が言っているのは、平成27年11月15日（日）に開催するこのイベントに対しての話です。このイベントを通じて今後どのように係わるのかは、今後の話だと思うのですが、いかがですか。各まちづくり団体から積極的に参加したいという申し出があればそれは当然ながら考えていく必要はあると思うのですが、それに対してご意見のある方いらっしゃいますか。

委 員； そのまちづくりの人たちが、パネルを使って自分のところを宣伝するということですか。

会 長； そういうイメージです。去年、イオンでいわふね青年会議所によるまちづくり団体のパネル展をやっておりますが、まちづくり協議会でも出しました。そういった形でこのようなまちづくり団体があるのかと、大勢の皆様がポスターを眺めていました。その程度であれば何ら支障はない、逆に喜ぶようなことだと思います。

それでは、積極的な参加依頼があったら受け入れていくということで決議してもよろしいでしょうか。

一 同； 異議なし。

会 長； ありがとうございます。残るは2点なのですが、今と関連性のあるパネル展にも参加する問題にもなってくるのですが、パネル展となるとスペースが写真で見たとおりそうそう余計にはできないという問題が出てきて、事務局に調整をお願いするということになります。

それで、皆様に考えていただきたいのは、果たしてこのようなことを行って、人が来るのかということです。意外とこういうテーマでは来ないと思うのです。私も以前企画した事業の参加者が少なかったことがありました。講師の方が一生懸命になってやってくれたのですが、それだけに残念でなりませんでした。

委 員； 集客の関係は、講師先生が村上市の活性化のためのテーマをもとにご案

内するとともに、たとえば、景品を予算でみるとか、予算の調整も考えられるのではないのでしょうか。

会長； 今のご意見のような、こういう方法はどうかというのをフリートークでお願いしたいと思います。

委員； やはり地元のことは、地元でやってもらった方が良いでしょう。他所の人が来てやってもらっても、自分の良いところしか言わないので。それはそれで参考にはなりますが、絶対に発展しません。私は岩船地区の皆様の声をまとめています。今のお話は村上地区だけの話で、我々岩船の者とすれば岩船は岩船というところから始めて、まず今は村上地区でやってもらえば良いので、各地域を活性化するためにやってもらいたいと思います。岩船、次は上海府などというように回らなければ良いとは言えません。

一生懸命する人でなければ、まちは絶対に活性化しません。来年の11月は村上地区で行えば良いですが、活性化のためにするのだから村上地区の方はどうすれば良いか考える必要があると思います。

あと、パネルについては、お客様は来ないという意見もありましたが、私はパネルが余計にあれば本当に地域の人には来ると思います。スペースを取ってやはり各地域の特色を出し、それを宣伝すれば、これから良くなると思います。以上です。

会長； ありがとうございます。

委員； やっぱり自分が生まれたところに誇りを持つとか、自信を持つというところからまちづくりをやっていかないとヨレヨレになります。各地域の良いところがいっぱいあるけれどもハリキリ者がいないと駄目だと思います。やっぱり地域にもなにがなんでものハリキリ者がいないと意識しないと思います。それは大事なことで、岩船は岩船で本当に細かい道があったり、昔の家があったり、美味しい魚も獲れますので、それぞれの良いところがあると思います。「まちの駅」もそれぞれの土地でいろいろ目的が変わると思います。私の頭ではちょっと考えられませんが、あまりにも大きな範囲でまとめるというのは、大変だという気がします。だから、自分のまちの目的というのは、今だったらまとめられるけど、他所のところはどうかと言われても良く分からないです。そのまとめ方は難しいと思います。

「集い、語り、つながる場」という事業名というのも、もう少し具体的に素敵な「まちの駅」をつくるには、どのようにしたら分かりやすいか。50万円をいかに有意義に使うかということです。

委員； 別々に分けて使ったら何にもなくなります。50万円を全部村上地区にやって宣伝して、一つの核を作ってしまうと、良くできたら次に勇気が湧くかたちでないといけません。

休むところもなければならぬトイレもなければならぬ拠点となると、最終的には絞られてきます。村上地区にはそれがあるわけです。

会長； 今、各地でまちづくりが盛んに行われていますが、やはりその中でも多様化というのが非常に著しくなっていて、どのように多様にまち

をつくっていくのか、子供のためもそうですし、観光客のためもそうですし、自分たちの憩いの場所というもそうだと思います。ですから、そういった環境作りができれば一番「まちの駅」としての形はできると思います。

委員； やっている方のお話を聞くというのが一番大事で、それを聞いた上でどうしていこうかという議論になると思います。どういう良いことがあって、こういうやり方もある、でもこういうところは失敗したとか講演で行っている方の意見というのを聞いて、それを参考にしていって独自の村上市に合うものを決めていくべきではないかと思います。

会長； 私も同感です。一つここで私の意見を申し上げるのですが、50万円を全部使うのではなく少し残しておいて、皆様で総括してみたらどうかと感じております。一つの意見として聞いておいてください。他にございませんか。

委員； 認定ということで、「まちの駅」は、特別の認定というのはいないでしょう。はっきり言って、「設置の主体に制限がない。」「どこでやっても良い。」「だれがやっても良い。」そういう趣きのものに、5つのまちづくり協議会が「まちの駅」について協議の結果、それぞれにあっても良いし、今は、村上地区を中心とした考え方が出ているというような話の捉え方で感じています。

ただ、目的についてはどんなことが目的であっても良い。これは、幅広く考えたほうが良い問題と感じています。

会長； 事務局説明をお願いします。

事務局； 先ほども若干触れましたが、必ずしも認定が全てではないと考えております。ただ、認定を受けることによって全国的な情報を仕入れることができる。また、全国的に発信することができるというメリットもあります。ですが、私どもが求めているのは、いかに地域の皆様が交流できるかということが非常に大事だと考えております。観光に特化する、しないというのは別問題として、いかにして地域の方々が顔を合わせられるか、拠点がどうあるべきかその辺も含めて全国的な事例として「まちの駅」というものがあるということです。必ずしも認定が全てではないということでこのサブタイトルのところに村上版とつけさせていただいております。

会長； あくまで、予算要求していかないことにはできませんので、内容的には概算ということですが、一応この事業計画、企画書で予算を要求していった50万円の予算を支援していただいた上で、これは再度議論できる場があるわけですか。

事務局； はい。あります。

会長； 今、言ったところを皆様の中で意見しながらより良い企画に持っていったらと考えております。一応この企画書をベースにして、できる範囲で訂正して予算を獲得するという段階に進みたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。どなたかご意見ありますか。

委員； どのようにしたら人が集まるかということです。やりました、集めたら10名でしたとなると困るので、それなりのPR活動が必要になります。

- 会 長； 他に意見がなければ、(2) その他に移ってもよろしいですか。
- 事 務 局； 一つその中で協議していただきたい部分があります。各まちづくり協議会で商品開発などに取り組んでいると聞いています。また、いろいろなコンテスト等もやっていて物品や食品も出てきているようです。それらもこの会場で提供できないか協議をお願いしたいと思います。
- 今ほど、集客ということも言われておりますので、各協議会で行っているものの発表があつたりすれば集客の方も期待できると考えています。
- 会 長； さて、(1) 村上地区地域活性化推進事業については終わらせていただきます。(2) その他の方で、引き続き先ほどの委員の考え方、今、事務局から説明のあつたことを皆様で議論していただこうと思います。

(2) その他

- 会 長； 何でも構いません。ご意見のある方いらっしゃいますか。
- 委 員； アトラクションや郷土芸能なども書いてありますが、それはどういったことでしょうか。
- 事 務 局； 特にこれだというものはないのですが、5 地区で芸能祭をやっているので、そういう発表でも良いと思っています。例えば、山辺里地区では「さべりソング」を作って踊りも作ったりしていますし、いろいろな商品開発を考えている団体もありますので、そのお披露目、こういったことを活動していますといった発表の場でも良いと考えております。講演会は1～2 時間で、それ以外でもホールを使っていろいろ発表できるということです。
- 会 長； 地域の人や「舞い」といった芸能もありますので、少し踊ってもらおうと、それを目当てに来るお客さんもいると思います。
- 委 員； 食生活改善推進委員協議会では、食育フェアというイベントを去年から開催しておりまして、地域の野菜を使ったレシピを募集したものを10 月の25 日、26 日に発表します。そういうものをパネル展で展示することも考えられると思います。
- 会 長； ぜひ積極的に係わっていただきたいです。
- 委 員； 食育フェアを今年は村上プラザを会場に10 月の25 日、26 日の土日にやることになりまして、もし良かったら皆様も寄ってみてください。
- 会 長； ありがとうございます。
- 委 員； 山北から荒川まで、村上市の全地域を対象に行います。
- 会 長； 分かりました。他にありませんか。
- 委 員； 村上市教育情報センターだと公共施設ということで、しかも教育施設のため、物品販売は恐らく無理なはずなので、最近、開発された食べ物でしょうから、50 万円の予算の枠の中から買い上げをして、皆さんに試食用に提供したらどうでしょう。そうすると、人は集まるのではないのでしょうか。
- 会 長； このホールは、食べたりはできるのでしょうか。
- 事 務 局； ホール内は駄目ですが、エントランスの部分であれば大丈夫です。
- 会 長； パネル展をしようとしているところは良いですが、ホールに入ってしまう

うと駄目ですか。

事務局； はい。駄目です。

会長； では、委員のおっしゃったようなことも可能かと思えます。

委員； 山辺里地区ですと、文化祭で村上牛の串焼きを出すのですが、すぐに完売してしまいます。あとは、食生活改善推進委員協議会の協力もいただいて、さべり焼きの開発を行っているので、まもなく製品化すると思えます。

委員； さべり焼きとは何ですか。

委員； おやきです。

会長； 長野名産のおやきですか。

委員； 山辺里の食材を使っておやきを作っています。8月のふれあいフェスタにも試食していただいて、結構好評だったそうです。たぶん、この文化祭でも試食をしてもらうような段取りになっていると思うのですが、来年度ですから時間がないのですけれども、そういう物を出せるのであれば出したいと思えます。ただ、施設的に中で食べることができないとなると定期的に難しいのかなというのがあります。

事務局； 同じ建物内に他の部屋を借りるということは可能です。ただし、2階の方になりますので、少し動線的に厳しい部分は出てくるかもしれません。例えば、小さく切り分けて試食として出してエントランスで食べていただくというのは十分可能であると思っております。

委員； 食べ物と子供、さべりソングを作って歌わせて、ダンスや体操をすることになると親が必ず付いてくるので、一人いれば3倍になる。だからそういう計算が成り立つから結構な人数は集まると思えます。

委員； 若い方も入れないと絶対に駄目ですよ、これからのことですから。

会長； 基本的な話になりますけれども、区長会にお願いをして集客を上げていかななくてはならないと思えます。

委員； 今年の夏のふれあいフェスタでは、区長会にある程度、分担してもらおうかと思ったのですが、それは趣旨が違うと、まちづくり協議会が主体になってやりましょうというようになったんです。そうしないと、企画はこっちでやって集客は区長ばかりになってしまいます。主体は、まちづくり協議会がやるべきだと私は思えます。

会長； ありがとうございます。他にありませんか。

委員； 上海府の文化祭は子供が少ないため、学校と地域が一体となって毎年行っています。今、委員がお話したとおりだと思います。まちづくり推進委員会が主体となって、あとは公民館と一体となってどうしたら小学生を引き止められるか、盛り上げていこうかと考えています。

体育館でやるのですが、以前はお昼になったら、弁当は食べられないということで、皆、家に帰ったんです。小学生が帰ってしまうので何の意味もないし、盛り上がらないとのことで、ごさを敷いて食事をしながら鑑賞するというのを昨年から実施して評判が良いです。高齢の方は足が悪いので、座椅子を用意しました。

あと、食生活改善推進委員協議会で、手打ちうどんとか神林地区の雑煮

が、人気があり大好評でした。

会 長； 今、推進事業について皆様でご協議しているのですが、これはやはり将来の人口減少問題に繋がっており、私どもが諮問され、そして答申するという一つのテーマになっていると思いますので、頭の隅っこに置きながら今後皆様にご意見を頂戴したいと思っております。それでは（２）その他について議事を閉じたいと思っておりますので、事務局お願いします。

事 務 局； ご審議ありがとうございました。少し確認させてください。予算の計上について、印刷製本費は圧縮をかけ、むしろ事業の運営費の方に充てるべきだということによろしいでしょうか。

一 同； 異議なし。

事 務 局； はい、分かりました。そのような形で予算を組みたいと思っております。

4 その他

事 務 局； 4のその他に移りますが、皆様から何かありますか。

委 員； 前回、成人式でパネルを出すということがあったと思いますが、どのような感じだったのですか。成人式の時、お母さん方に4人くらいしか聞けなかったのですが、PRの仕方とかは、どうだったのでしょうか。

事 務 局； 申し訳ありません。パネル等を出したのが政策推進課でしたので存じ上げておりません。どういった反応だったのか確認いたしまして書面等でお知らせさせていただきたいと思っております。

委 員； 実際、お母さんたちにお聞きしたら、「分からない」「見てない」と言うわけです。成人式でやるのが良いのか、同級会、お祭り感覚の人にPRしても果たして本当にできるのか。もっとブースを手前にして、そこを見ないと通れないだとか、せっかくお金をかけているわけですから、PRの仕方をもうちょっと何とかした方が良いと思っております。あと、アンケートでも出して必ず見ないと帰れないだとか、せっかく出しているのにどうなのかと思いました。

事 務 局； 分かりました。担当課の方から適切な回答が行くようにします。

委 員； 村上駅周辺まちづくりプラン等策定委員会の簡単な概要についてご報告します。

7月29日（火）でした。通算でいいますと6回目になります。流れ的には、福祉関係の複合施設、保育園に関する要望施設やいろいろなものを加えまして、老人介護施設とか、意見が大きな流れになってきたので、「現在のスペースとして考えるならば」という意見を出させていただいています。

次回、委員会は10月末日という予定です。一般の方には、来年の1月中にパブリックコメントを実施するという事です。

会 長； 今、委員が報告したのは、村上駅周辺まちづくりプラン等策定委員会のことで、この村上地区地域審議会から委員にお願いをし、第2回目からご出席いただいております。この審議会で報告をしてもらい、ご意見を委員に持っていったらうことも可能です。

事務局； はい。

会長； そんなことで次回から委員には報告をお願いします。答申はいつまでですか。

委員； 市民の方から意見をいただく段階です。第9回に最終のまちづくりプランの検討。来年3月、市長に答申します。

会長； コンサルタントは入っているのですか。

委員； はい、入っています。

会長； 委員、ありがとうございました。今後ともよろしく願います。

事務局； それでは、時間にもなりましたので第3回目の地域審議会のご連絡をいたします。

【事務連絡；次回の審議会の件】

事務局； それでは、本日の審議内容全て終了となります。最後に副会長から閉会のご挨拶をお願いいたします。

副会長； 皆様、てきぱきとご審議していただきまして、今回は活発なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。良い方向で取りまとめしていただくことをお祈りいたしまして、今日は本当にありがとうございました。

5 閉会 (15:00)